

令和4年度 第2回 新潟市立坂井輪図書館協議会 議事概要

日 時： 令和5年3月8日（水） 午後3時30分～午後5時
場 所： 坂井輪地区公民館4階 講座室1
出席者： 新潟市立坂井輪図書館協議会 郷会長、関副会長、奥山委員、田村委員、
藤田委員、星名委員（欠席者 石川委員）
事務局 真柄館長、川上主任、小林主査
傍聴者 なし

I 次第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和4年度 事業中間報告
 - (2) 令和5年度 事業計画（案）について
 - (3) 「新潟市読書バリアフリー推進計画」策定について
- 4 その他
- 5 閉会

II 議事

- (1) 令和4年度 事業中間報告
 - (事務局) 概要説明
 - (藤田委員) 備考欄に参加人数などの記載がないものがあるが、事業に対して関心がどれくらいあったかの基礎的な資料となり、事業の現状把握になるので、次回からで構わないので、記載を希望する。
 - (事務局) 2月時点ということで、まだ終わっていない事業もあり載せていなかったが、終わった事業でも数値が載っていないものがあった。資料に不足があり申し訳なかった。以後気を付けたいと思う。
 - (会 長) 事業の内容が備考欄に書いてあると分かりやすいと思う。絵本なんでも相談タイムの参加者と相談内容をお聞きしたい。
 - (事務局) 参加された保護者の方からの相談で、内容は、どの年齢にはどんな本を選んだらよいか、寝転んで読んでもよいのかなど、家で読み聞かせをする際の疑問に図書館職員が応じている。
 - (藤田委員) 1ページ目の読書週間事業ではどのくらい貸し出しにつながったのか、具体的に数字が出ていると評価ができ、意見などコメントもできるので、具体的な資料をいただくとありがたい。
 - (事務局) 例えば秋の読書週間事業の好きなテーマに投票するイベントでは、子ども第1位は食べ物で、3館合計で150枚を超えるシールが貼られた。
 - (藤田委員) 150人以上の方が関心を示したということですね。
 - (事務局) 何回参加していただいても構わなかったなので、延べ人数になる。

(藤田委員) そのまま貸し出しにつながるということか。

(事務局) 絵本や物語の本を展示していたので、それを手に取って借りていく子どもたちもたくさんいた。

(2) 令和5年度 事業計画(案)について

(事務局) 概要説明

(星名委員) 2点お聞きしたい。1点目、「ア 市民の生涯学習や課題解決を支援します」の施策2の概要に記載されている「県立図書館ほか専門機関との連携と専門職員の育成」とは、具体的のどのようなことをお考えかお聞きしたい。

2点目、「エ 市民参画と協働を推進します」の主な実施事業で、「新潟市立図書館協議会の設置と開催」とあるが、市の図書館協議会を1本化することのねらいと、どのようなことを期待されているのかをお聞きしたい。

(事務局) 最初のご質問の専門職員の育成というところについては、レファレンス、調査相談の対応ができる職員の育成のため、積極的に研修に参加してレベルアップを図っていきたいと考えている。

2点目の新潟市立図書館協議会への統一については、各区にあることで地域の方たちのご意見を聴ける利点があるが、逆に市全体の動きがわからない。統一することで各区と併せて全体の動きを見ていけるというメリットがある。

(星名委員) 委員の人数は変わるのか。

(事務局) 10名の予定で、なるべく各区の在住者を選出したいと考えている。

(会長) 図書館だけでなく、公民館運営審議会など区ごとあったものが全市一斉で情報共有しようと集められたときに各区により取り組みや住民カラー、必要とされていることなどが違うと感じたことがある。新潟市全体ということで他区の取り組みが分かるという利点もあるが、話がかみ合わないことがあるのではないかと心配もある。図書館は、地域に合った図書館で、地域の方がたくさん足を運んでもらうところなので、地域への発信がおろそかにならないとか、地域の方への視線は変わらずに、情報として全体を知るが、対応や取り組みは西区の人たちにやさしい図書館であってほしい。

(藤田委員) 2ページの特色ある地域づくりのための地域資料は、西区に関する資料か。

(事務局) 西区もそうだが、新潟市、新潟県全域の資料を収集している。

(藤田委員) 地域の課題解決に役立つ資料の活用とあるが、地域の課題をどのように捉えているか。

(事務局) 西区自治協議会で聞いた話や西区役所だよりなどを参考に、選書の段階から意識して資料が提供できるようにしている。

(藤田委員) 人口減や高齢化が進むなかで良い取り組みだと思う。相続講座の人気は

地域住民課題がそういったところにシフトしているのが現状だと思う。それとリンクする形で展示も含めて工夫すると良いと思う。自治協議会ででた話題から地域の課題を分かりやすく展示されていると更に地域に密着した図書館、西区の方たち、周りの地区の方たちと一緒にやっているということが分かりやすいと感じた。

(田村委員) 新潟市の図書館協議会を1本化することについては、新潟市立図書館としてどう動いていくのか、何を目指していくのか、しっかりしたものを作って、それぞれの館に還元していくのは大事なことだと思う。1本化して、ほかの館のことを聞きあうのも勉強になるので良いと思う。

その下の、黒崎図書館利用者連絡会は今もやっていて、それを継続して残していくということなのか。1本化するのはメリットがあるが、地域の声を届けられる場所が明確にあるとよいと思っている方もいると思うが、どのようにお考えなのか。

(事務局) 黒崎図書館利用者連絡会は年1回開催していて、黒崎図書館で活動しているボランティアの方が参加し、主に黒崎図書館まつりについて相談している。来年度も連絡会の実施を予定している。地域の声をどのように吸い上げていくかだが、ひとまずは、今もある「図書館長へのたより」や直接の声を吸い上げていきたい。

(藤田委員) 子どもの読書活動の推進はいろんなところで取り組んでいるが、子どもを育てている保護者の年代も含めて読書離れが進んでいることが影響しているのかと思う。大学生も本を読まずスマホを見ている。スマホで本を読んでも良いが、子どもの読書活動に合わせて大人の読書活動を推進していただけたら良いと思う。

(田村委員) それは広い意味の子育て支援につながる。いろいろな大人がいて、大人も読んだり学んだりして成熟していく。そして皆で子どもを見るという社会が育つと良いと思う。楽しく読んだり学んだりする大人を見て育てば、その子が大人になったとき、図書館や読書に向かいやすいのではないだろうか。そういう社会の循環が大事。子どもにだけ読め読めと言うのは、子育て中の人たちだけが大変になると思う。

(会長) 新潟市は今年度からコミュニティースクールが始まり、国は地域全体で子育てをする教育策を出している中で、大人が本を読み、学習する姿を見せることが生涯学習を目の当たりにさせることだと思う。図書館がそういう場となるとよいと思う。政令市でもまだ施行されていないところが多い中、新潟市は令和4年4月に子ども条例が施行された。パンフレットも配布されているが、見て流してしまうので、子どもはみんなに守られて育つんだよ、あなたはあなたのままでいいんだよなど、図書館にそういうコーナーがあったらよいと思っている。

(事務局) 坂井輪図書館は子ども連れの利用が多いと実感している。西区だけでなく市全体として、良い提案をいただいた。子どもの読書環境に関して、新潟市は、昔から学校に司書がいる。それが数値としては表れないが、

本の読み方や、調べ方などの基礎的なことは多少なりとも身につけていると思いたい。いろいろ方法で子どもと本を結び付ける活動は今後も必要だと思っている。

- (副会長) 小学校としては、子どもと本を結びつける活動や職場体験の受け入れなどをしていただき助かっている。本を読む子を育てる目的は学校も図書館も一緒だと思う。地域に休日や放課後に行ける図書館である坂井輪図書館が、読書熱に火をつける活動のアイデアを学校も教えていただき、できたらと思う。学校図書館は、小学生はビンゴが大好きで、クイズにあたると冊数が多く借りられるのは喜ぶ。地域のニーズ、市全体で同じ水準を求める部分もあると思う。市民のニーズも大事。西区民のニーズを意識して行っている、生活に結びつくような事業が図書館へ足を運ぶことにつながっているのだろう。草の根的な活動を区民、市民は喜ぶ。学校でも配布して啓発するようなことがあれば情報をいただきたい。
- (会長) 学校図書館と公共図書館が連携しながら子どもたちに良い読書活動につなげていけたらよいと思う。
- (奥山委員) 大野小学校では、新型コロナウイルス禍でも月1回、教室にモニターを設置し、放送室で読み聞かせを行ってきた。校長や先生、地域教育コーディネーターも熱心で、5月からは毎月、週に1回行っている。黒埼図書館利用者連絡会のような地域で問題点などを話し合う場があるのでよいと思う。

(3)「新潟市読書バリアフリー推進計画」策定について

- (事務局) 概要説明
- (藤田委員) 非常に良い取り組みなので、ぜひ進めていただければと思う。
「障がい」の表記が気になっている。新潟市はひらがなであるが法律は漢字である。漢字の「害」には非常に違和感がある。
- (事務局) 新潟市はひらがなで統一しているので、この計画の文章もひらがなで統一される。ただ、国の法律は漢字なので、そこは資料も漢字となっている。
- (田村委員) 私も引っかかっていたので、今の話を聞き安心した。

Ⅲ その他

- (藤田委員) 仕事柄大学生と接することが多いが、大学生は本を読まない。大学1年生対象のゼミで大学図書館の使い方を説明しているが、うちのキッズひろばのようなクエストなど大学生も喜ぶ。楽しんで利用するための活動を小学校などでもやっているが、もっと広く大人向けの活動をすることで、図書館の楽しさを知ることができる。真ん中の年代が抜ける。そういった方を含めて広く市民の方に読書が役立つことを知るきっかけづくりが図書館であり、活字であると思う。そういう取り組みをしていただけると地域づくりにつながると思う。

- (事務局) 確かに大人向けのビンゴなどをやったことはない。やってみるのも面白いかもしれない。
- (副会長) 小中学校でタブレット端末が配付されていて、今年度からは学校の蔵書検索をタブレットでできるようになった。これが当たり前になると図書館利用につながるのかなと思う。日常的に本を読むことにつなげるには違う工夫がいると思う。なにか良い方法があるとよいのだが。
- (田村委員) 子どものときは絵本や本を読むが、学年が上がると一旦読書離れすることが多い。読書は良いと分かっているけど、忙しくて一番読書離れしている世代が子育てをしているように感じるときがある。大人も子育てや生活の中で悩んだり迷ったりする。良い児童文学作品は子どもだけでなく、大人にとっても大きな気づきがある。例えば大人も子どもも児童文学と一緒に楽しむ機会があると、親子間や世代間のコミュニケーションのきっかけになると思う。
- (事務局) 本をコミュニケーションツールとして、家族や地域の方とつながっているようなことが図書館でできると良いと思っている。
- (会長) 図書館がさらにみなさんの身近になり、いろんな方の学びの連鎖の拠点となっていくとよいと思う。

IV 配付資料

- 令和4年度 第2回 新潟市立坂井輪図書館協議会次第
- 資料1 令和4年度 西区の図書館・図書室事業中間報告
- 資料2 令和5年度 西区の図書館・図書室事業計画(案)
- 資料3 新潟市読書バリアフリー推進計画の策定について